

そのは頑張るチルドレンを応援します

スキー大国オーストリアの 英才教育システムに密着

スキー大国オーストリアには国立のスキー専門中学校があるのをご存じだろうか。

ヨーロッパの中学校は日本で言う所の小学校5年生から始まり、4年間を過ごす場所。

スキーではスニ、スニのカテゴリーの選手達の年齢に該当する。前田知沙樹は、長野県塩尻市在住の現在中学1年生で、小学校6年時に所属するスキーチームのシーズンインキャンプとして、オーストリアへ2週間の体験スキー留学をした事がオーストリアスキー国立専門中学校との出会いとなった。

体験留学から特待生へと 開かれたチャンス

所属するスキーチーム「TEAM DLWH」では毎年11月の下旬から2週間程度のオーストリアでのキャンプを企画し、ヘッドコーチの飛鳥井匠哉が約20年間この学校との交流を続けていること等から、スキーと生活の両面から体験留学を経験する機会を設けている。

そこでの活動の最中、唐突にチャンスは訪れた。「ライターアルムスキー場」でのスキートレーニング中。ゲート練習ではなく、フリーライディングの最中に「あの日本人の少女に大変な興味がある」そのように申し出た教官がいた。「スキーイングの最中の独特のフォームに過去のチャンピオンたちの少女期と共通点がある」それが「シ

ユピンカ・クラウス氏(2年生の体育スキー担当教官)だった。

「Chisaki(知沙樹)にオーストリアが好きかどうかを尋ねてみてくれないか？」 そのように飛鳥井コーチに依頼すると、知沙樹からは、

「大好きです。ずっとこっちでスキーをやりたいです」

と回答があった。

そこからの手続きはスピーディーで順調だった。校内で授業を受けるための手配、無償で泊れる寮の手配、オーストリアでの大会出場のためリリアンフルトスキークラブへの所属手続き、週末のホームステイ先の募集など、彼女が無償でオーストリアのこの学校で生活をする全てをアレンジして、「いつまで居てもいいし、いつまた来てもいい」として「特待生」としてのチャンスを作ったことになり、2011シーズンは12月と2月のそれぞれ1カ月づつ、2012シーズンは12月の1カ月をオーストリアで独りで過ごす経験をした。

少数精鋭のオーストリア チャンピオンを目指す集団

学校での生活は半日を一般科目の授業、もう半日をスキー場での練習をして過ごすのが日常。小雪期には、国内の雪のある所に遠征して合宿形式でスキーに集中した練習を行う。生徒のだけれども「オーストリアチャンピオン」になることを夢見て、それはイコール「世界チャンピオン」であることを疑わない。これは教官達トレーナーもま





た同じ気持ちで日々を過ごしている。小学6年時の前田知沙樹はドイツ語はもちろん、英語も全く不慣れな状態で、コミュニケーションをとる方法は、「スキーをすること」のみだった。こうしたチャンスが自分自身に訪れることを想像すらしたことがないのだから、英語の勉強も始めていなかったのだ。彼女に「チャンピオンになりたい。」という彼らと共通の気持ちがなければ、途中で挫折したに違いないが、根底にある気持ちに共通点があったことが、スキーや体育の授業はもちろん、一般科目の授業や、寮での生活でもコミュニケーションをとることを可能にしたに違いない。

自分達は、テストに合格しチャンスを与えられ、思う存分スキーの練習ができる。そうしたことが生徒達に活気を与え、同じ頂点を目指す少数の精鋭達が丸となって活発に日々を過ごすのである。

夢の実現のために 英語をマスター

もちろん実際の生活では苦戦の連続だった。第一に言葉の壁である。体験留学期間は飛鳥井コーチをはじめ、周囲に仲間もいるし、言葉に困ることもない。しかし突如始まったたった独りでの留学。まだ習ったこともない英語を急に勉強を始めたとして、そう簡単に身につくものではない。小学6年の2011シーズンの2カ月は身振り手振り、そして毎日の学習で覚え始めたほんの少しの英単語でどうにかできるもの



スキーというスポーツ
があったからこそ、語
学など学業へのモチベ
ーションもあがった



ミハエラ・ドルフマイスター スキー ハーフト シューレ リリアンフェルト校

過去数十年にわたり、アルペンスキーワールドカップのネーションズカップで圧倒的1位の座を譲っていないオーストリア共和国は、人口800万人程度のヨーロッパの中堅国の一つ。アルプスに囲まれ、多くのスキーリゾートを有する事もあり、国技がスキーである事から、スキー競技の専門機関でスキーハーフトシューレと呼ばれる、国立のスキーの専門中学校がオーストリアの州に1校設置されている。「ミハエラ・ドルフマイスター」はトリノオリンピックで2つの金メダルを獲得した、この中学校出身の選手の1人で、WCの総合優勝など目覚ましい活躍を遂げた選手であることからこの学校のクレジットとして最近学校の名前となった。

リリアンフェルトは、「リリアンフェルト式スキー」として、日本のスキー教程等にも出てくることからその名前になじみのある方もいると思うが、オーストリアでは「スラローム競技発祥の地」として、ニーダーオーストラヒヒ州のスキー競技の中心的役割を担っている。日本でも有名なリッチーベルガーなども、この地でスキースクールを構えている。

全校生徒は約40名、1学年10名程度の少数精鋭で、入学時に約3倍の倍率で試験が行われる。また、この学校を卒業後は、同様の専門高校に進むことができるが、こちらの倍率も高く難関となっている。スキーと体育の専門講師が5名、各一般教科の講師が5名他、事務担当職員や校長先生等もいて、非常に手厚い指導体

制がとられている。学校の設備も校舎の他、体育館、専用グラウンド、プール、寮など足りないものはない。

オンシーズンには、アンナベルクススキー場などニーダーオーストリア州内の専用コースで練習を行い、オフシーズンや、シーズン最初の小雪期には遠征に出て、合宿形式での練習を行う。一般教科の講師も同行して、学業の遅れがないようにするのもこの学校の特徴だ。



ではなかったはずだ。しかしながら8カ月を経た中学1年のBISシーズンの際には、ほぼ中学で習う表現の全てを駆使して、大体の会話はできたという。中でも最も大切なのは、スキートの授業の際の教官とのやり取り、ここでは、滑ることにタイムが読み上げられ、タイムに対してのコメントや滑りの改善案がやり取りされる。また、スキー以外の際には他の生徒とのコミュニケーションでとくに寮での会話は、共通の外国語である「英語」となる。「オーストリアでの生活」その様な夢が現実となり、とりあえずは「英語」更にオーストリアでの生活を試みるなら「ドイツ語」の習得が必須となるが、「学習のための理由」としては十分ということになるのではないか。

毎回のタイム計測で 厳しい生き残り合戦を経験

スキートの授業の中での各種目の練習の割合は、フリーラン、SL、GS、SGがそれぞれバランス良く行われている。日本のように当初「GSばかり」と言うことではないのが大きな違いになっている。その代わりにオーストリア国内のSL特別ルールで「K1でマックス9m」「K2でマックス10m」となっていて、各種目の特徴が鮮明に分かれている。当然マックス9mのセットを「順手」で滑ること等不可能で最初から「逆手」を教える。GSの用具もRV27mの175cm程度の短いスキーが流通していて、危険の少ないSGがしやすい環境が整っている。

また、どの種目の練習でも毎回必ずタイムを計るのが特徴の一つであり、1年生のようなクラスでも腕時計等で簡単に測ることのできる方法でタイムを計り、常に競争心を持つようにしている。また上級生になれば、それが行内のタイムレースとは言え将来を左右することにもなり、知沙樹もクラス分けのためのタイムレースでも常に緊張感を伴って取り組んでいたことになる。

毎週末各地で行われる 公認レース

知沙樹の留学した地域でも、毎週末、多くのスキー場で公認レースが開催されていて、それらはすべて共通のシステムによりポイント化され常に更新を繰り返されるシステムになっている。あまりに多くのスキー場でそれぞれのスキークラブが大会を開催しているため出場人数が少なく、平等で良い条件でレースに臨めるし、調子の良い状態でタイミングを選んで大会に挑戦することができ。これがオーストリアのチルドレン世代の有利な所だ。もちろん、この世代を過ぎれば、過酷なFのレースが待っていて、300名ともいわれるCのレースチームの中から、生き残っていかねば「ヨーロッパカップ」等への出場はできない。知沙樹もこうしたシステムを体験し、5レースほど出場した。良い結果も悪い結果もあったが、少女期に独りで競技会に挑戦をして得た結果は、後のその価値が大きくなり人生の糧になることだろう。



短期でも行ける体験留学で オーストリアの文化を体験

ヨーロッパの冬は「お祭り」も多い。「クリスマス」や「クランプス祭り」が代表的だが、どちらも期間が長く、盛り上がりも国民的行事だ。2011年のシーズンインの時期には、山本尚(小5)と前田菜里乃(小5)の二人も約2週間のプログラムで留学を体験した。同年代の異国の選手達と練習を通じて同じ時を過ごし、スキー技術の進歩があったのはもちろんだが、異文化を体験し、楽しんだことはチルドレンたちに有形無形の影響があったと思う。

知沙樹の場合、ウィークデーは学校の寮で集団生活となり、同部屋の友人たちとの生活を楽しみ、週末はそれらの友人の誰かのお宅へホームステイをするスタイルだったので、各家庭の生活に触れておもてなしを受け、特色のある文化を体験したことだろう。とくにクリスマスはクリスマスの4週間前から各地で「クリスマスマーケット」が開催されて、華やかで趣のある文化を体験できるし、日本では馴染みはないが「クランプス祭り」という悪魔の装いの数百体のもの「クランプス達」が街中をパレードするお祭りなどは、他では見ることでできない貴重な体験となった。

後記

現在、前田知沙樹は長野県の中学一年生の女子で一人、全国中学校スキー大会のSL・GS両種目の長野県代表選手となり、日本一を目指してその活動を継続中。



(上)クリスマスマーケットにて。(左上)山本尚、(左)前田菜里乃

オーストリアへ20年間、チルドレンへ夢の橋渡し 飛鳥井匠哉コーチ

TEAM DLWHスキークラブを主宰する飛鳥井コーチは18歳でオーストリアのスキー教師の資格を取得してから20年間、毎年欠かさずオーストリアへ渡り続けている。それらはすべて、最新のスキー理論とスキー指導法の勉強のためである。最近ではニーズに応えるため、各自のプランに合わせた渡航企画と現地のコーディネートなどにも対応している。飛鳥井コーチのスキーに対する夢はオーストリアとの出会いでより大きくなり現在に至る。「オーストリアでは国営放送でスキーの映像が休みの日には終日流れ、毎朝各スキー場の情報が漏れなく家庭に届けられる。街角の看板やポスターはタレントスキー選手で、TVコマーシャルもスキー選手で彩られている。そんなスキーヤーにとって夢の世界があるということを皆に知ってもらいたい。」そういったことが活動の

原点だ。

シーズン中は菅平高原にてレーシング・テクニカルキャンプを毎日開催中

TEAM DLWHスキークラブ

東京都八王子市明神町4-12-1

<http://www.facebook.com/dlwhskiclub>

asukai@dlwh.jp

090・3042・9826

DLWHシーズンイントレーニング

●オーストリア国立スキー専門中学校への体験留学ツアー

<http://blog-asukai.dlwh.jp/>

11月末より2週間程度

